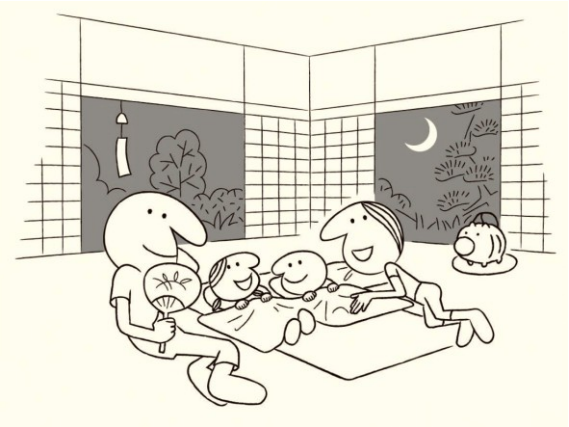
ニュースレター
2017年6月14日
積 水 ハ ウ ス 株 式 会 社
ﾀﾞｲｱﾛｸﾞ･ｲﾝ･ｻﾞ･ﾀﾞｰｸ･ｼﾞｬﾊﾟﾝ

「ダイアログ・イン・ザ・ダーク 対話のある家」夏休み限定プログラム、7月6日よりスタート 好評の自由研究応援企画 “親子で暗闇・点字体験”今年も開催

積水ハウス株式会社が、情報受発信拠点 「SUMUFUMULAB（住ムフムラボ）」（グランフロント大阪）で定期開催しているダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパン（本社：東京都渋谷区、代表：志村真介）との共創プログラム「ダイアログ・イン・ザ・ダーク 対話のある家」は、7月6日（木）から8月28日（月）まで夏休み限定プログラム「夏の夜のおしゃべり」を開催します。また期間中、昨年好評を得た自由研究応援企画、暗闇体験後に親子で点字を学ぶ「夏休みくらやみ教室」を今年も限定開催（全9回）。

実施に先立ち、6月15日（木）正午よりWEBでのチケット先行販売を開始します。

これまで世界39カ国以上で開催された、暗闇のソーシャルエンターテイメント「ダイアログ・イン・ザ・ダーク（以下、DID）」。その暗闇を、子どもの教育に活かす動きが世界で広がるなか、世界で唯一、家族・家をテーマとする「DID対話のある家」では、もっと多くの親子に体験してもらおうと、昨年初めて夏休み限定プログラムを展開。怖さと好奇心が交差する暗闇での新鮮なコミュニケーションが好評を得て、親子での参加者数が他プログラムの2倍に達しました。



＜暗闇体験「夏の夜のおしゃべり」＋点字体験「夏休みくらやみ教室」＞

今年の夏休み限定プログラムのテーマは「夏の夜のおしゃべり」。セミや花火、夕立、風鈴といった夏ならではの音など、視覚を閉ざした暗闇で体感することで、各自の夏の記憶を呼び覚まし、寛ぎながら会話を楽しみます。

さらに期間中合計9回、自由研究応援企画として「触れる、感じる、見えてくる 夏休みくらやみ教室」を今年も開催。親子で暗闇を体験した後、「点字板」と「点筆」を使って、点字を打つワークショップに挑戦。暗闇を案内したアテンド（視覚障がい者）と一緒に点字作品を作ります。昨年は点字で親への感謝を伝えたり、体験後に点字の絵本作りにチャレンジした子どももいました。暗闇体験で見つける新しい「気づき」と併せて、子どもたちの記憶に残る学びの場となることを目指します。

【本件についてのお問合せ】
積水ハウス株式会社　広報部
（大阪）TEL　06-6440-3021　　（東京）TEL　03-5575-1740
（本社）大阪市北区大淀中1-1-88　梅田スカイビル　タワーイースト

<ダイアログ・イン・ザ・ダーク「対話のある家」開催概要>

	第17回（夏休み）プログラム 「夏の夜のおしゃべり」	自由研究応援企画 「触れる、感じる、見えてくる 夏休みくらやみ教室」 （第17回プログラム＋点字体験）
開催場所	グランフロント大阪　北館ナレッジキャピタル4階　（大阪市北区大深町3番1号） 積水ハウス「SUMUFUMULAB（住ムフムラボ）」	
開催期間	2017年7月6日（木）～8月28日（月） (火曜・水曜定休)	7月21日（金）22日（土）23日（日） 24日（月） 8月17日（木）18日（金）19日（土） 20日（日）21日（月）（合計9日間）
開催時間	午前11時より1日5回	午前11時より1回のみ
参加料金	大人3,500円／学生2,500円／ 小学生1,500円　（税込）	大人4,000円／学生3,000円／ 小学生2,000円　（税込）
所要時間	70分	90分（プログラム＋点字体験）
参加人数	各回・6人まで	
チケット発売	6月15日（木）正午～	
購入方法	WEB予約　http://www.sumufumulab.jp/did/	
問い合わせ	「対話のある家」お問い合わせ事務局 0120-29-2704（11：00～18：00 ※土日祝日除く）	

「子どもたちの教育に、ダイアログ・イン・ザ・ダークを」

一般社団法人 ダイアローグ・ジャパン・ソサエティ代表理事 志村 季世恵

ダイアログ・イン・ザ・ダークは、1988年にドイツで、哲学博士アンドレアス・ハイネッケが発案したソーシャルエンターテイメントです。参加者は完全に光を遮断した空間の中へグループを組んで入り、暗闇のエキスパートであるアテンド（視覚障がい者）のサポートのもと、中を探検し、さまざまなシーンを 体験します。

子どもたちがダイアログ・イン・ザ・ダークを体験すると、驚くことが起こります。内気な子が積極的になったり、時にはいじめられっ子がいじめっ子の手を引いてサポートしたりします。視覚障がい者とも、すぐに対等な関係を築きます。お母さんも、先生も、今まで全く知らなかった、たくましくて優しい姿がそこにはあります。ヨーロッパ、イスラエル、アジア各国ではDIDが課外授業に取り入れられ、多くの子どもたち が体験する仕組みができています。実は、日本以外では、世界の約６割の参加者が子供たちです。日本でも、もっと多くの子供たちに体験をしてほしい。DIDの暗闇体験を経験した彼らが大人になったときに、きっと社会は大きく変わると思っています。

<1万人以上が体験した、ＤＩＤと積水ハウスの共創プログラム「ＤＩＤ 対話のある家」>

積水ハウスは「生涯住宅」思想のもと、長年にわたり「スマートユニバーサルデザイン」などの研究活動を続けてまいりました。その一環として、「感じる力」「関係性の回復」「多様性を認める」を目的に、対話する場を提供し続けるDIDとの共創プログラム「ＤＩＤ 対話のある家」を2013年4月に開設。日常では得られない気づきやコミュニケーション向上の機会を提供し、2016年3月には体験者が1万人を突破しました。

さらに、ブランドビジョン「SLOW ＆ SMART」を実現する住まいの快適性を深化させる研究にも展開していく予定です。

見て触れて楽しめる「DID 対話のある家」の展示コーナーも参考に

<これまでの開催実績>

- 開催日数：2013年4月26日から開始、開催日数は計634日間（2017年5月30日現在）
- 参加者数：約13,425人／性別：男性41%、女性59%
- 年代：10代以下7%、20代29%、30代28%、40代21%、50代11%、60代以上4%
- クリスマス、お正月など、季節ごとに毎回異なるプログラムで実施。
  プログラムの合間には、スペシャル企画も開催しています。

<これまでの体験者の声>

- 耳と手で何があるか確認するのは難しく初めは不安でした。子ども達の好奇心には驚かされました。何事にも音に注意して動いてみるのもいいなぁと思いました。（40歳 女性）
- おそらく生まれて初めて体験する本当の暗闇の中、一緒にいる人の声や息遣いが不安を紛らわせてくれることに気付きました。徐々に自分からも声掛けをしたり手を伸ばしたりするうちに、少しずつではありますが暗闇の世界での発見の一つ一つが楽しく感動的なものとなっていく変化に驚きました。非常に貴重な時間でした。（53歳 男性）
- なんにも見えなくて声だけで進んで、ちょっと心配でちょっとこわくても、くらやみを案内してくれたアテンドの２人がいたから安心して歩くことができました。（10歳 男子）
- 声が大きく感じました。おかしの味がこく感じました。ジュースをのんだらいつもよりつめたかった。（9歳 女子）
- 見えないという事がこんなにも真っ暗だと気が付かなかった。壁や床・声など頼るもの支えてくれるものが安心感につながった。人と人も同じですね。当たり前と思っていることは、当たり前ではないこと。ハウスメーカーがこういう試みをしているのは面白いことですね。家とは何かを考えます。（61歳 女性）
- 想像していた目の見えない世界とはいろんな意味で違い驚きました。自分ではネガティブなものと思ってなかったつもりでも、やはりどこかでそう思っていたように感じました。暗闇と明るい世界、同じようにネガとポジも広がっているんだなと。（40歳 男性）
- 見えないけれど、夏らしい体験をさせていただきました。線香花火、子どもの頃の思い出がわーっと出てきました。見よう見ようとする気持ちはだんだんなくなって、ゆっくりのんびりする気持ちになってきました。一人で参加するのを迷っていましたが、思いきって参加して良かったです。（42歳 女性）

昨年2016年開催
点字体験「夏休みくらやみ教室」の様子

昨年2016年の体験者の感想